

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立このいけ幼稚園

教育目標		豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子どもの育成 ○やりぬく子 ○やさしい子 ○創り出す子						
重点目標		自信をもって行動する子どもを育てる保育をすすめる						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	聴く・話す・考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考えを言葉で伝えたり、聴く力を育てたりする保育活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に園内研修会をもち、すべての教員が年1回以上公開保育をする。 4歳児は、子どもの話したい気持ちを受けとめ、じっくり話を聴いたり友達に気持ちを伝えたりできるようにする。 5歳児は、4月から少人数で考えを伝え合い、遊びを創り出す機会を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教員が年1回以上保育を公開する。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、自分の気持ちや考えを言葉で伝える力や、聴く力を育てている」と回答した割合が85%以上になる。 学級懇談会で、学級目標と照らし合わせて子どもの育ちを保護者と確かめ合う機会をもつ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員が年2回以上保育を公開し、研修できた。 「幼稚園は、自分の気持ちや考えを言葉で伝える力や、聴く力を育てている」と保護者から96%の肯定評価を得た。 年度初めの学級懇談で学級目標について伝え、その後の9月の懇談会で子どもの育ちと目標をつなげて話し合った。3月の学級懇談でも実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き、9月と3月の学級懇談会で年度当初の学級目標と照らし合わせて、子どもの育ちを保護者と確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数の職場だからこそ、保育を公開し、お互いに学び合う必要がある。今後も続けていってほしい。
	自信と行動力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「自信をもって行動する子どもを育てる」ための保育研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育や事例研究を通して保育カンファレンスを行い、遊びを創り出す子どもを育てていくための教師の援助を探る。 KJ法を用いて「遊びを創り出す子どもの姿」を全職員で出し合い、子どもの発達の流れや、遊びを創り出す力を育むための教師の援助のポイントを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて「幼稚園は様々な体験を通して、興味関心を高め、意欲をもったり、やり遂げた満足感を得たりして自信をもって行動する子どもを育てる保育を行っている」と回答した割合が85%以上になる。 学期ごとに事例を出し合い、研究を積み上げる。 学期ごとにKJ法を用いて、遊びを創り出す子どもを育てるための教師の援助のポイントを分析し、まとめる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「自信をもって行動する子どもを育てる保育を行っている」と保護者から94%の肯定評価を得た。 「遊びを創り出す子どもを育てるための教師の援助」を探るために、子どもの姿からその要因を考え考察していく過程で、教師の援助のポイントや発達の流れがわかりだした。 事例の検討を年度末までにまとめる。 KJ法では日々ラベルを書きためていくことがなかなか出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> KJ法は全職員で、活発に意見交換ができ、学びをすぐに保育に活かすことができるので、3学期も引き続き行っていき、来年度は今年度明らかになったポイントをもとに保育を実践していく。 月1回のラベルタイムを確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「遊びを創り出す子どもを育てるための教師の援助」は、今年度の取り組みの中で、どんな環境が必要であるのか、どんな力が付いたのか、そのためにはどんな遊びを経験してきたのかをまとめていく必要がある。
	幼稚園教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 幼小連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに幼小の職員で年間の交流計画について話し合うとともに、打ち合わせや反省会を機会ごとにとる。 幼児と児童との交流活動を学期に1回もつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも学期に1回、幼児と児童との交流活動をもつ。 児童との交流の機会には、事前事後の職員間での話し合いを必ず行う。 保護者アンケートにおいて「幼稚園は、小学校との交流に努めている」と回答した割合が85%以上になる。 「小学校生活につながる意欲や自信友達との関係を大切にしたい保育を行っている」と回答した割合が85%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態からも、1学期に交流を行うことは難しかった。しかし、それ以降、2学期には2回、3学期には4回と頻りに交流できた。 年度初めに交流計画をたてることはできなかった。しかし、幼小交流会において事前事後の職員間での話し合いは確実に取ることができた。回を重ねるにつれ、子ども同士のかわりがより深まるような内容にしようという両者の意識が高まった。 「幼稚園は、小学校との交流に努めている」と「小学校生活につながる意欲や自信、友達との関係を大切にしたい保育を行っている」で保護者から93%の肯定評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小教師間の交流も密になってきたので、この関係を次年度にも引き継いでいく。 今年度の反省を基に、次年度は子ども同士のかかわりがより深まるような内容を検討していく。 年度当初に幼小交流の担当者を決めておき、交流の計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも子どもの声を聞き、子どもが小学校への進学を楽しみにしている様子が見え、保護者も安心できる。 小学生にとっても幼小交流を通して学ぶことが多かった。普段の様子とはまた違う様子が見られ、良い機会であるので今後も引き続き取り組んでいきたい。

豊かな心	思いやりの心の育成	・思いやりの心を育て、温かな仲間づくりを行う。	・一人一人のよさや違いを認め合えるクラス作りに努める。 ・特別支援対象児について全職員で共通理解し、支援方法を共有する。 ・学年の枠を超えて、異年齢交流の機会を多く設け、自然なかかわりが生まれるようにする。 ・園外保育で異年齢でペアやグループをつくって、一緒に活動する機会を設ける。	・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、子どもに自分を大切にしている」と回答した割合が85%以上になる。 ・特別支援対象児の小集団プレイを年間7回行う。 ・運動会で異年齢競技をする。	A	・「幼稚園は、子どもに自分を大切にしている」と回答した割合が97%、「子ども同士の仲間作りがうまく行われている」と回答した割合が92%の肯定評価が保護者から得られた。 ・好きな遊びで4歳児は5歳児から多くの刺激を受け、自分たちの遊びに取り入れる姿が見られた。また、3学期以降、異年齢と一緒に遊ぶ姿が多くなり、5歳児が遊びのルールやこつを教える姿が見られる。 ・特別支援教育対象児の個別の指導計画の話だけではなく、普段から子どもの情報交換を密にし、クラスの枠を超えて全職員で対象児にかかわることができた。 ・計画通り特別支援対象児の小集団プレイを年間7回行った。	・今年度同様、ここにタイムや戸外での遊びを4、5歳児と一緒に楽しむ時間を確保し、子ども同士の交流を深める。 ・引き続き、一人一人のよさや違いを認め合えるような教師の援助を意識して行う。 ・次年度も、園外保育や行事で異年齢がかかわる機会を意図的に設けていく。	・核家族化が進んできている中で、異年齢でかかわることが出来る機会は大切である。 ・自分が一生懸命取り組んだことや自分たちが夢中になっていることだからこそかわりやすいのではないかと。今後も続けてほしいと思う。
	健やかな体	健やかな心身の育成	・意欲的に運動遊びに取り組めるように遊びを工夫する。	・体幹を鍛える運動を毎日の保育に取り入れる。 ・1学期から体操やマラソンを継続して行い、園生活のリズムを整える。 ・8時55分開始の体操・マラソンまでに身支度を済ませます。	・一日1回は園庭で思い切り体を動かして遊ぶ機会をもつ。 ・体幹を意識した遊びを一日一度保育に取り入れる。 ・8時55分開始の体操・マラソンまでに身支度を済ませます。	B	・全クラス、一日1回は園庭で体を動かして遊ぶことができた。 ・体幹を育てる遊びを意識して取り組めたが、毎日継続することは難しかった。 ・年間を通して開始時刻をそろえて全クラスで体操やマラソンに取り組めた。 ・マラソンを昨年度よりも早く取り入れたことで、定着や走る力の向上につながった。 ・マラソンの前に縄跳びの時間を設けることで、個々が目標をもって取り組むことが出来た。	・体幹を鍛えることを意識した遊びを年間通して継続して行う。 ・生活リズムがつきにくい子どもや運動が苦手な子どもに対しては、その要因を探りながら、色々な運動遊びを通して少しずつ「できた！」という自信を育てていく。
開かれ信頼される幼稚園	幼稚園情報の積極的な発信	・積極的に幼稚園情報を発信する。	・4月中に「このいけ幼稚園ガイド」を作成し、年度当初に教育目標や年間行事、園生活全般について周知を図る。 ・幼稚園のホームページを月2回更新する。 ・保育参観やオープンスクールの期間を増やし保護者に幼稚園の様子を公開する。 ・父親や祖父限定のオープンスクールを実施する。 ・通用門横の掲示板を活用し、幼稚園での子どもの様子を地域や保護者に発信する。	・土曜参観日(運動会を含む)を年間3回実施する。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園だよりやクラスだよりなどを通して、園の考えや子どもの様子を保護者にわかりやすいように伝えている」と回答した割合が85%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「毎日の保育やオープンスクール、行事の際に見る子どもの姿から、成長を感じられる」と回答した割合が85%以上になる。 ・掲示板の掲示物を毎月新しくする。	B	・「このいけ幼稚園ガイド」で年間行事を年度当初にお知らせしたことで、父親参観などの参加者が増えた。 ・計画通り土曜参観を年間3回実施できた。 ・「幼稚園だよりやクラスだよりなどを通して、園の考えや子どもの様子を保護者にわかりやすいように伝えている」と回答した割合が85%以上になる。 ・「毎日の保育やオープンスクール、行事の際に見る子どもの姿から、成長を感じられる」と回答した割合が97%の肯定評価が保護者から得られた。 ・ホームページの更新が滞る月があった。 ・掲示板は毎月新しくすることができ、保護者からも好評であった。	・次年度もこのいけ幼稚園ガイドを作成し、年度当初に配布する。 ・ホームページの更新については、行事の担当者が意識し、終了後すみやかにホームページにUPする。	・クラスだよりを増やすなど、行事の前だけでなく子どもの様子をもっと知らせしてほしい。 ・遠くに住んでいる家族・親戚にも目で見えて子どもの様子がわかるように、ホームページをもう少し頻りに更新してほしい。

学校関係者評価総括

・どの設問も非常に評価が高いことが見てとれる。項目を見ても、小学校と目指すところが近いように感じるので、小学校と隣同士の強みを生かし、今後も接続を図っていく。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・ホームページの更新は、行事の担当者が責任をもって更新できるように期限を設ける。
- ・幼小交流については、幼小共に教師間の意識が高まってきているので、次年度に引き継いでいく。また、次年度は幼小ともに交流担当を位置づけ、当初に年間計画をたてる。
- ・次年度の研究発表会に向け、「遊びを創り出す子どもを育てるための教師の援助」について、どんな環境が必要であるのか、どんな力が付いたのか、そのためにはどんな遊びを経験してきたのかをまとめていく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標通りに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った